

子どもたちをまん中にした環境の中で・・・

ご入園、ご進級おめでとうございます。

園庭には、子どもたちが植えたちゅうりっぷが咲き、うれしそうに風に揺られ、新しい出会いにわくわくしている子どもたちを迎えてくれているようです。

これから始まる新しい生活が、子どもたちにとっても保護者の皆さまにとりまして楽しいものとなりますよう取り組んでいきたいと思っております。

さて、新年度は新入園児 2 名を迎え、進級児 31 名とともに 33 名でスタートします。

昨年度もコロナと共生しながら、できる限りの予防対策をし、行事も形を変えながら行い、普段通りに「たのしい保育」を進めてきました。感染症の収束には、まだ時間がかかるとは思いますが、保護者の皆様にもこれまで同様、検温・健康観察表の記入などのご協力をお願いします。

当園では『感謝と思いやりのある自主的な行動のとれる子』を育てることを保育理念としています。赤ちゃんの頃からしっかり可愛がられ、声をかけてもらい、普通の愛情で満足することが土台となります。大人から与えられた安心感や信頼感が自分の存在に対する自信となっていきます。これが「やる気」の原点になったり、友だちを求める気持ちに繋がります。成長する中では、楽しい経験ばかりではなく、時に痛い、悲しい、悔しいというマイナスの経験を乗り越えていく中で人との付き合い方や我慢したり、自分の気持ちに折り合いを付けることを学び、自分以外の人も認めることで感謝や思いやりの心が育っていくのだと思っております。

3月12日に卒園式を終え、保育園を巣立って行った年長児は、卒園式の中で保護者の方へ感謝の気持ちを伝えていました。自然豊かな小屋浦の地域の中で、いろいろな人やものに関わり、心豊かに過ごし、感謝の気持ちが育ち、異年齢と一緒に過ごすことで小さいクラスの友だちから憧れの存在となる経験をしたことで、思いやりの心も育まれてきました。式の間も背筋を伸ばし、保育証書を受け取る友達の姿を見守ったり、話をしっかり聞く姿勢が見られ年長児ならではの成長を感じることができました。

保育園に入園してから卒園するまでの乳幼児期は、子どもたちの人生に深く関わる大事な時期と言われています。その時期に、子どもたちが「やってみたい」ことを思う存分できる空間や時間を保障していくことで、子どもたちは主体性を伸ばし、自分で考え自主的な行動のとれる子になっていくのだと思っております。

新しい環境の中で、思い通りにいかないことで気持ちがイライラして、自分の気持ちがコントロール出来ない事があるかと思っておりますが、園生活に慣れ、集団生活の中で意欲的に遊ぶことで落ち着いてくると思っております。

また、意欲的に園生活を楽しむには、まず生活リズムを整えていくことが大切です。基本的な生活習慣（寝ること、食えること、衣服を着ることなど）はすべての自立の習得につながっていきますので、ご家庭でも出来るだけ子どもたちの様子に合わせて声かけや援助をしていただきますようにご協力をお願いします。

園内や園庭の環境が少しずつ変化することで、子どもたちは驚き、わくわくします。そうすることで、子どもたちはその環境に自ら関わろうとしようとするでしょう。触ったり、動かしたり、新たなものを創造することもあると思っております。保育園で子どもたちがどんなことに興味を持ち取り組んでいるのか、そのあそびがどんな風に広がり、つながっているのかなどあそびの中で子どもが学んでいくのだということを保護者の皆様にも一緒に感じていただきながら、ご理解ご協力をいただき、家庭と保育園が連携をとり、こどもをまんやかにした子育てをしていきたいと考えています。

子どもたちは、はじめての“出会い”に心を躍らせ、見るもの触れるものにわくわく、ドキドキすることでしょう。子どもたちとともに職員も心を動かして楽しみたいと思っております。一年間よろしくお祈りいたします。

園長